

科捜研で働く

兵庫県警察本部刑事部科学捜査研究所心理科 研究員

沖中 武 (おきなか たける)

科捜研とは

科学捜査研究所(科捜研)は各都道府県警察に属する機関で、各分野の専門知識を持った職員が、犯罪捜査に関わる鑑定業務や捜査支援を行っています。また、鑑定技術の向上および犯罪予防への貢献を目指してさまざまな研究も行っています。心理学を学問的背景に持つ職員は、ポリグラフ検査や文書鑑定等の鑑定業務を行ったり、捜査支援業務として犯罪者プロファイリングを行ったりしています。

ポリグラフ検査

その中でも私はポリグラフ検査を担当しています。ポリグラフ検査は、ある事件の捜査線上に浮上した人物が、犯人しか知らないような事件の内容を知っているのか知らないのかを明らかにするための一つの方法です。

検査では、ポリグラフ装置と呼ばれる機械を用いて、皮膚電気活動や呼吸といった複数の生理反応を測定しながら、事件の内容に関する質問をしていきます。そして、各質問に対して生じた生理反応の変化を比較することで、事件の内容に関して知っているのか否かを判定します。このようにポリグラフ検査は、これまで心理学、特に生理心理学の分野において築き上げられてきた方法論に基づいて行われている検査であり、ポリグラフ検査の実務の現場はまさに「心理学が生きてる現場」と

言うことができます。

ポリグラフ検査の結果は、以後の捜査の参考資料となる場合もあれば、証拠の一つとして公判廷に提出される場合もあります。そのため、検査実施にあたっては、プレッシャーがかかる場面が少なくありません。その分、検査結果に基づいて捜査が行われ、事

件解決に至った時には、大きなやりがいを感じることができます。

放置駐輪問題への取り組み

私は現在、鑑定業務以外に、ポリグラフ検査に関する研究や、放置駐輪問題の解決策に関する研究に取り組んでいます。私は大学院在学中から放置駐輪行動や自転車およびバイクによる歩道走行行動に対する介入研究を行動分析学の視点から行っていました。昨年には市街地でフィールド実験を実施する機会をいただき、現在も地方自治体と共同で放置駐輪の防止策に関する実験を進めているところです。

実は、放置車両が窃盗の標的となったり、窃取された車両が他の犯罪に使用されたりする事例は少なくありません。したがって、放

Profile—沖中 武

2008年、関西学院大学文学部総合心理科学科卒業。2011年より現職。2013年、関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程総合心理科学専攻心理科学領域修了。博士(心理学)。専門は行動分析学。



検査室にて

置駐輪を防止することは、都市の景観を維持することや通行人の円滑な通行を可能にすることに加え、犯罪の予防にもつながると考えられます。殺人や窃盗といった犯罪のイメージとはかけ離れた問題のように感じられると思いますが、規則からの逸脱現象であるという点は共通しています。そこで得られた知見は、犯罪行動の防止あるいはさまざまな規則からの逸脱行動の防止に役立つのではないかと考えています。

私たち科捜研の心理担当者は、今後も鑑定業務、捜査支援業務および研究活動に邁進し、心理学を武器に、安全で安心できる社会の構築に貢献していきます。